

1.8 産婦人科後期臨床研修カリキュラム、専門医養成コース

1. 産婦人科の概要

1. スタッフ

部長 1名 山本 真一

医長 2名

医員 2名

後期研修医 3名

日本産婦人科学会専門医 5名、代議員 1名

日本がん治療認定医機構暫定教育医 1名、認定医 1名

日本東洋医学会指導医 1名、専門医 1名

日本消化器外科学会認定医 1名

2. 設備・検査・手術などの実績

<診療実績（平成25年度実績）>

・分娩数 総分娩数：786件

・経膈分娩：452件

・帝王切開：273件

・吸引または鉗子分娩：61件

他の産婦人科施設から妊娠中の様々な疾患や合併症のある方が当院に紹介されるため、全国平均（約18%）より高い帝王切開率となっている。

・婦人科手術件数（帝王切開を除く）：332件

・悪性腫瘍関係

卵巣癌手術（中間群1例を含める）：20件

子宮癌手術（上皮内癌を含まず）：30件

円錐切除手術（初期子宮頸癌の診断および治療目的）：46件

・良性腫瘍など

子宮全摘出術（良性腫瘍） 開腹：44件、 腹腔鏡：34件

子宮筋腫核出術 開腹：18件、 腹腔鏡：1件

卵巣・卵管に対する手術 開腹：31件、 腹腔鏡：62件

子宮下垂・子宮脱手術：6件 腹腔鏡：12件

その他の手術：29件

・抗癌剤使用実績

44人に対してのべ223コースを実施

<医療機器>

産婦人科専用の多様な形の超音波診断装置は4Dエコー装置を含めて7台保有し、さまざまな目的、疾患、妊娠の状態に合わせて的確な診断をスムーズに行うことができる。産婦人科手術分野では、腹腔鏡手術の設備があり、また癌治療分野では、各種化学療法、また放射線治療も院内で行える。放射線科にPET-CTを始め各種診断機器が充実しており、これらを有効に利用できる。

2. 診療科の特徴

<産科領域>

近年、当院取り扱いの分娩件数が急増し、安全確保や緊急搬送への対応が不十分となることを懸念して、平成22年度から異常を伴わない妊娠の分娩予約を制限したが、平成25年度から産婦人科スタッフ数を増員でき、取り扱い分娩数を増加させる事が可能となった。

当院の取り扱い分娩数の推移

平成17年度	534件
平成18年度	657件
平成19年度	824件
平成20年度	909件
平成21年度	992件
平成22年度	953件
平成23年度	925件
平成24年度	931件
平成25年度	786件

周産期医療では分娩経過途中で急激な母児の状態変化はしばしばあり、極めて緊急度の高い帝王切開も数多く経験する。当院には産科病棟と隣接して中央手術室があり、多数在職する麻酔科医師等との連携のもと、超緊急帝王切開も実施できる体制がある。また当院の産科病棟の看護職員は全員が助産師資格を有しており、愛知県内でも稀な充実したスタッフ構成となっている。

当院の周産期医療においては「安全であること」を第一に考え、患者様に対して常に次の点をアピールしている。

1) 自然なお産を大切にする。

自然経過では安全が確保できないと推定される場合にのみ、誘発分娩、帝王切開

などを行う。

2) 母乳育児を支援する。

母乳育児推進のため、お産後の入院は母子同室を原則としている。

3) 母体と赤ちゃんに異常が生じた時には、直ちに最適な医療技術を用いて対処する。
緊急事態には病院中の設備と人員を動員する。

<婦人科領域>

子宮良性腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症）、付属器腫瘍にも最新の機器を用いて正確な診断を行い、動脈塞栓術も含め、様々な治療方法がある疾患では、患者様の選択をお手伝する気持ちで医療を行う。特に近年では腹腔鏡手術の希望者が増加しており、当院の実績にも反映されている。

悪性腫瘍の取扱数は増加している。診療においては学会制定のガイドラインを遵守し、各種画像診断法（CT、MRI、PET-CT等）、病理診断法、その他の診断法を用いた正確な診断のもと、手術、化学療法、放射線治療、緩和療法等の集学的治療を実施している。

更年期においては、身体の様々な不調（更年期障害）、骨粗しょう症、老人性膵炎、などの変化が現れる。これらにも様々な治療法（ホルモン剤、漢方薬、自律神経治療剤、膵剤、など）を選択して実施する。

高齢者を中心として、子宮や膀胱が下垂する疾患（子宮脱、膀胱下垂、等）により受診される方が増えている。誰にも相談できず、長年一人で辛い思いを我慢されていた方も多く、当院では膣内挿入器具による治療や根治的手術も行う。

なお、当産婦人科では漢方薬も積極的に活用している。

3. 一般目標

日本産科婦人科学会臨床研修プログラムに準拠し、日本産科婦人科学会専門医の取得に必要な知識技能の習得を行う。それを基盤にし、更に日本婦人科腫瘍学会専門医、日本周産期新生児学会専門医等の取得への準備を行う。

4. 行動目標

3年目

(1) 産科の臨床

1) 生殖生理学の基本を確実に理解する。

- ① 母体の生理
 - ② 胎児の分化, 発育の生理
 - ③ 胎盤の生理
 - ④ 羊水の生理
 - ⑤ 分娩の生理
 - ⑥ 産褥の生理
- 2) 正常妊娠, 分娩, 産褥の管理ができる。
- 3) 異常妊娠, 分娩, 産褥の診断・管理を理解し, 必要に応じて上級医に委ねる。
- 4) 妊娠中, 産褥期 (授乳中) の薬物療法
母児双方の安全性を考慮した薬物療法を行い得ること
- 5) 産科検査の原理と適応を理解し, データにより適切な臨床的判断を行えること
- ① 妊娠の診断法
 - ② 超音波検査法
 - ③ 羊水検査法
 - ④ 胎児, 胎盤機能検査法
 - ⑤ 分娩監視装置による検査法
 - ⑥ X線検査法
- 6) 産科手術の修得
- ① 子宮内容除去術を独立して行い得ること
 - ② 吸引分娩術を指導医とともに実施できる
 - ③ 帝王切開術を執刀医として経験する。
- 7) 産科麻酔と全身管理
麻酔指導医のもとで必要な麻酔全般にわたる修練を受けることが望ましい
- ① 麻酔法の種類と適応を理解すること
 - ② 分娩室において産科麻酔を行い得ること
 - ③ 全身管理を行い得ること
- 8) 新生児の管理
- ① 新生児の生理を理解すること
 - ② 新生児仮死蘇生術を理解経験すること
 - ③ 正常新生児の管理を理解し, minor trouble の治療を行えること

(2) 婦人科の臨床

- 1) 婦人の解剖, 生理学を確実に理解する
- ① 腹部, 骨盤, 泌尿生殖器, 乳房の解剖学
 - ② 泌尿生殖器の発生学
 - ③ 性機能系の生理学

2) 婦人科疾患の取扱い

- ① 感染症（性病を含む）の診断，治療を行い得ること
- ② 腫瘍
良性腫瘍の診断，治療を行い得ること
悪性腫瘍の早期診断、病理、治療についての経験をする事
- ③ 内分泌異常（発育，性分化異常を含む）
一般治療に必要な知識と経験を有すること
- ④ 不妊症
一般治療に必要な知識と経験を有すること
- ⑤ 性器の垂脱
診断，治療を経験すること
- ⑥ 婦人科心身症（更年期障害を含む）
検査，診断，治療を経験すること

3) 婦人科疾患の全身管理を理解経験すること

- ① 救急時の全身管理
- ② 輸液
- ③ 輸血
- ④ 薬物療法

4) 婦人科手術 その1

- ① 術前，術後の全身管理を行い得ること
- ② 手術のリスクを評価し得ること
- ③ 術後合併症の診断と処置を経験すること

5) 婦人科手術 その2

- ① 主治医として以下の手術の執刀を経験すること
子宮内容除去術、付属器摘出術、単純子宮全摘出術(腹式、膣式)、子宮脱根治手術

(3) 産婦人科の内分秘学

- 1) 性機能系に関するホルモンの種類，生理作用，作用機序，代謝などを理解すること
- 2) 内分泌検査法の原理と適応を理解し，結果の判定が可能なること
 - ① 基礎体温測定法
 - ② 頸管粘液検査法
 - ③ 各種ホルモン測定法
 - ④ 各種ホルモン負荷試験
- 3) ホルモン療法の種類と原理を理解し，その経験を有すること

- ① 排卵誘発法，排卵抑制
- ② 子宮出血止血法，子宮出血誘発法
- ③ 黄体機能不全治療法
- ④ 乳汁分泌抑制法（高プロラクチン血症治療法）
- ⑤ 更年期障害治療法
- ⑥ 月経随伴症状治療法

4) 産科内分泌

- ① 胎盤ホルモンの種類，生理作用，作用機序，妊娠経過による変化などを理解すること
- ② 胎児胎盤系におけるステロイドホルモン産生の機序と臨床的意義を理解すること
- ③ 子宮収縮（分娩）に関するホルモン（オキシトシン，プロスタグランディンなど）の基礎知識を有し，それを臨床に用いられること
- ④ 乳汁分泌の機序を理解すること

(4) 産婦人科の感染症学

1) 婦人性器の感染症

- ① 性器感染症の特徴を理解すること
- ② 病原体の種類，検出法，感染による症状を理解すること

2) 産科の感染症

- ① 妊婦における感染症の特殊性を理解すること
- ② 胎内感染と胎芽，胎児病（先天異常）の関係を理解し，患者を指導し得ること
- ③ 周産期感染の診断，治療，予防ができること

3) 治療法

- ① 抗菌剤の種類と特徴を理解していること
- ② 抗菌剤の選択を適切に行い得ること
- ③ 禁忌，副作用を理解していること

(5) 産婦人科病理学

- 1) 婦人性器の基本的な組織構造を理解していること
- 2) 剖検例の見学が望ましい

(6) 母性衛生

- 1) 妊婦、産婦、褥婦、新生児の保健指導を理解すること
- 2) 家族計画の指導を行い得ること（経口避妊薬の投与，IUDの挿入・抜去を

含む)

3) 母体保護法など母性衛生関連法規を理解していること

(7) 専門医としての一般的要件

- 1) 社会保険制度の概要を理解していること
- 2) 診療記録の作成，整理を適切に行い得ること
- 3) 患者あるいは関与する他の医師，パラメディカル，その他との信頼関係を確立するに足る倫理と人間性を有すること

4年目

(1) 産科の臨床

- 1) 異常妊娠，分娩，産褥の管理ができる
リスクを判定し，いかなる症例についてもプライマリケアを行い得ること
- 2) 産科手術の修得
 - ① 吸引分娩術を独立して行い得ること
 - ② 鉗子分娩術を理解、経験すること
 - ③ 骨盤位牽出術を理解すること
 - ④ 帝王切開術を執刀医として独立して行い得ること。
- 3) 新生児の管理
 - ① 新生児仮死蘇生術を行い得ること
 - ② 正常新生児を管理でき、minor trouble の治療を行えること
 - ③ 新生児異常のスクリーニングを行い得ること
 - ④ 未熟児，病児の出生直後のプライマリケア及び保育法を理解していること

(2) 婦人科の臨床

- 1) 婦人科疾患の取扱い
 - ① 腫瘍
良性腫瘍の診断，治療を行い得ること
悪性腫瘍について早期診断，病理，治療についての一般的知識を有すること。
化学療法の種類，特徴，副作用など基礎的事項を理解していること
化学治療中の患者管理を理解し経験すること
 - ② 内分泌異常（発育，性分化異常を含む）
一般治療に必要な知識と経験を有すること
 - ③ 不妊症
一般治療に必要な知識と経験を有すること

- ④ 性器の垂脱
診断, 治療を行い得ること
- ⑤ 婦人科心身症 (更年期障害を含む)
検査, 診断, 治療を行い得ること
- ⑥ 乳房疾患
乳房の診察を行い得ること
- ⑦ その他の一般治療に必要な疾患診断, 治療を行い得ること
- 2) 婦人科疾患の全身管理を行い得ること
 - ① 救急時の全身管理
 - ② 輸液
 - ③ 輸血
 - ④ 薬物療法
- 3) 婦人科手術 その1
術後合併症の診断と処置ができること
- 4) 婦人科手術 その2
 - ① 主治医として以下の手術を執刀できること
付属器摘出術
単純子宮全摘出術 (腹式, 膣式)
子宮脱に対する根治手術
 - ② 悪性腫瘍の根治手術の執刀または助手を経験すること
- 5) 放射線療法
 - ① 放射線の種類, 特徴など基礎的事項を理解していること
 - ② 治療法の種類, 特徴を理解し, 適応について意見を述べられること
 - ③ 治療中の患者管理を行い得ること
 - ④ 放射線防禦の基礎知識を有すること

(3) 産婦人科の内分泌学

- 1) 内分泌検査法の原理と適応を理解し, 結果の判定が可能なこと
 - ① 膣内容塗抹検査法
 - ② 各種ホルモン測定法
 - ③ 各種ホルモン負荷試験
- 2) ホルモン療法の種類と原理を理解し, その経験を有すること
 - ① 排卵誘発法, 排卵抑制
 - ② 子宮出血止血法, 子宮出血誘発法
 - ③ 黄体機能不全治療法
 - ④ 乳汁分泌抑制法 (高プロラクチン血症治療法)

- ⑤ 更年期障害治療法
- ⑥ 月経随伴症状治療法

(4) 産婦人科の感染症学

1) 婦人性器の感染症

- ① 性器感染症の特徴を理解すること
- ② 病原体の種類，検出法，感染による症状を理解すること

2) 産科の感染症

- ① 妊婦における感染症の特殊性を理解すること
- ② 胎内感染と胎芽，胎児病（先天異常）の関係を理解し，患者を指導し得ること
- ③ 周産期感染の診断，治療，予防が出来ること
- ④ 新生児感染症の取扱い方法を理解していること

(5) 産婦人科病理学

- 1) 婦人科腫瘍の病理組織学的特徴を理解していること
- 2) 病理組織学的診断の内容を的確に理解し，それにより治療方針を決定し得ること
- 3) 細胞学的診断（スメア検査）の内容を的確に理解し得ること
- 4) 染色体および性染色質検査法を理解していること

(6) 母性衛生

- 1) 妊，産，褥婦，新生児の保健指導を行い得ること
- 2) 家族計画の指導を行い得ること（経口避妊薬の投与，IUDの挿入・抜去を含む）
- 3) 母体保護法など母性衛生関連法規を理解していること

(7) 専門医としての一般的要件

- 1) 社会保険制度の概要を理解していること
- 2) 診療記録の作成，整理を適切に行い得ること
- 3) 患者あるいは関与する他の医師，パラメディカル，その他との信頼関係を確立するに足る倫理と人間性を有すること

5. 経験目標

<後期研修目標>

異常妊娠、分娩、産褥の取扱いを理解し、判断できること。産婦人科治療に際して助手の参加が容易にでき、指導医のもと主体的に行動できること。産婦人科特有の諸問題の存在を理解し、医療の場面に応用できること

(1) 研修項目

- 1) 異常妊娠、分娩、産褥の管理、リスクの程度を判定し、プライマリーケアを行える。
- 2) 内分泌異常（発育異常、性分化異常を含む）の治療。
- 3) 不妊症の治療に必要な知識を得る。
- 4) 性器垂脱の治療に必要な知識を得る。
- 5) 婦人科心身症、更年期障害の検査、診断、治療に必要な知識を得る。
- 6) 放射線治療の特徴を理解し、患者管理を行うことができる。
- 7) 妊婦及び性器感染の特徴を理解し、患者を指導することができる
- 8) 周産期感染の診断、治療、予防ができる。
- 9) 母体保護法を理解する。

(2) 各種検査の研修目標

- 1) 産科検査（妊娠の判断、超音波検査、分娩監視装置による検査）の原理と適応を理解し、適切な判断ができる。
- 2) 基礎体温測定、頸管粘液検査、膣塗抹検査法、ホルモン測定法の原理と適応を理解し、結果の判定ができる。
- 3) 染色体、性染色質検査法を理解する。

(3) 産婦人科疾患の治療と研修目標

- 1) 性感染症（性病）の診断と治療を行える。
- 2) 良性腫瘍（子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症）の診断、治療を行うことができる。
- 3) 子宮内容除去術、吸引分娩、骨盤位娩出術、帝王切開術を独立して行うことができる。
- 4) 新生児仮死蘇生術を行うことができる。
- 5) 付属器摘出術、単純子宮全摘出術、子宮脱根治術の執刀（助力を得て）が出来る。
- 6) 悪性腫瘍の根治手術の助手ができる。
- 7) 排卵誘発法、子宮出血止血法、子宮出血誘発法、黄体機能不全治療法、高プロラクチン血症治療法、更年期障害ホルモン療法の種類と原理を理解し、実施で

きる。

- 8) 子宮収縮（分娩時）に関するオキシトシン、プロスタグランディンの基礎知識を有し、実際に用いることができる。
- 9) 抗菌剤の種類、特徴を理解し、選択を適切に行い、更に禁忌、副作用を理解する。
- 10) 家族計画の指導を行い、経口避妊薬の投与やIUDの挿入及び抜去ができる。